

## 第2回福山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員からの意見概要

### <ライフステージごとの主な意見>

#### (出会い・結婚)

##### ○出会いの支援

- ・街コンなどを開催している自治体はあるが、効果が見込めなかったという報告もあり、取り組む必要性は低いのではないか。
- ・ネットでの出会いが増加している。自治体が介入するマッチングアプリ等があれば、抵抗感が減少するのではないか。

##### ○経済的負担

- ・奨学金の返済など経済的な負担が将来への不安となり、晩婚化につながっているのではないか。
- ・結婚生活には一定の経済力が必要であるが、経済的な不安が結婚しない要因の一つなら、その軽減策は必要と思う。

##### ○若者の流出

- ・若い人が就学のタイミングで転出している状況がある。福山市内の大学の定員と高校卒業生の人数がマッチしていないのではないか。大学生が少ないことが出会いの減少につながり、人口減少・少子化になっているのではないか。

#### (妊娠・出産)

##### ○不妊治療

- ・福山市内で体外受精まで実施している医療機関は2施設しかない。また、通院で2～3時間待つ、妊婦健診も同時に実施されており、不妊治療で通うのはストレスを感じるという声を聞いたことがある。新幹線で福岡や兵庫に通っている人もいる。
- ・不妊治療と仕事の両立ができない要因として、近くにクリニックがないことも要因として考えられる。体外受精などができるクリニックを誘致することで、負担も減るのではないか。
- ・晩婚化・晩産化により不妊治療に苦勞しているという報道も見る。若い人には経済的負担が大きい。
- ・不妊治療は費用負担だけでなく、精神的負担も大きい。不妊治療の普及啓発が必要ではないか。
- ・不妊治療の現状等を踏まえ、充実策を検討する必要があるのではないか。

##### ○妊娠・出産の支援

- ・妊娠・出産の負担軽減策や分娩医療機関・医師数など、近隣市町と比較・分析し、充実させることで、子育て世帯に選んでもらえるまちとなる必要があるのではないか。
- ・尾道市の「おむつ定期便」は産後の不安や負担を軽減する有効な制度と思う。自治体の格差や出産の不安がなくなるよう国に提言する必要があるのではないか。

## (子育て)

### ○子育て支援

- ・子育て世帯の転入を増やすことが人口減少の鈍化には有効ではないか。子育て世帯の転入実績のある市町では、経済的負担の軽減、地域での子育ての見守り、保育士の確保などを行っている。
- ・福山市の近隣市町は保育料が安い、医療費助成が手厚いという噂を聞いている。近隣市町と比較・分析し、子育てに係る費用を軽減することで、子育て世帯に選んでもらえるまちとなる必要があるのではないか。
- ・子育てに費用がかからなければ、出生率は上がるのではないか。
- ・鹿屋市が行っている「ハグ・テラス」は、子育て世帯及び新婚世帯向けの市営住宅であり、ママカフェ等が併設された子育て世帯に優しい住宅である。子育て施策として有効ではないか。
- ・福山市の子育て支援策は充実してきている。子育て支援策の地域格差が生まれないよう国に働きかける必要があるのではないか。

### ○共働き・子育て

- ・男女の相違なく育児休業が取得できるような制度設計が必要である。
- ・育児休業を取り、家事・育児をしない男性がいることは非常に問題である。
- ・女性の出産児の離職や子育て期に就業など、子育てと仕事の両立ができよう、奈義町の「しごとコンビニ」のような多様な働き方の推進が有効ではないか。